

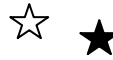


みらいっうしん

7月号

2017年7月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 長南 康子

★。°*:.*:。 , :*: ★



季節はめぐり、いよいよ“夏”になりますね。5歳児の子ども達が、プール掃除をしたり、プール上の旗飾りを作ったりして、プール遊び・水遊びの準備が整いました。保育者は、子ども達が大好きな水遊びを思う存分楽しんでほしい、夏ならではの経験を十分にしてほしいという願いをもって、水遊びの活動内容・遊具・教材等を様々な視点をもって考えて保育を行います。子ども達と一緒にお日様がたくさん出る日が続きますようにと祈りたいと思います。

さて、みらいこども園の子ども達はみな、お話をしたり、聞いたりすることが好きです。絵本などは勿論ですが日常の何気ない会話や生活の中で投げかけられた質問に対する話など、こちらから話しかけると、「なあに？」と耳を傾けて、聞こうとします。それは乳児の子ども達でも同じです。対話は言葉を使うことばかりではなく、視線で、表情で交わすこともできます。相手とのコミュニケーションは他者に関心をもつことから始まります。本園の子ども達が相手からの話かけに関心を示し、対話が自然に生まれるのは、ご家庭で丁寧にかかわってくださっているからだと思います。言葉が分からないからと言って、大人の関わりが少ないと、周りの刺激に対する反応も薄くなるのではないかと考えられます。大事なことは、他者から投げかけられた働きに、まずは、注目するとか、相手の話を聞こうとする態度がとれることではないかと思えます。

しかし、時には何か、失敗をしてしまったとか、上手くいかなかったと感じて、わざと話を聞かないという態度をとることもあります。その場は子ども自身でいろいろな感情を動かしていると受け止め、形としての態度だけを望むことはせず、大人が本当に伝えたという思いに繋がるようにしたいですね。子どもはその時の状況や発達の過程で気持ちの表し方も変化していきます。常に変わらないあるべき姿として態度のみを求めても、自律を促すことにはならないと考えます。

子どもと同じ目の高さになり、ゆっくりと話をすることで、一人一人の思いに気づくことができます。将来の人に対する信頼感、他者とのよりよい関係、物事を探求する力等を培う基礎作りのためにも、子どもと対話する時を大切にしたいですね。
(長南)



みらいこども園の きらきらクッキング

にじ組の子ども達がクッキングの名称を投票方式で決めました。

園庭でナス・キュウリ・ピーマン・ミニトマト・エダマメ・スイカ・サツマイモを育てています。収穫すると、どのように食べようかと子ども達と保育者、栄養士、皆で相談し、お料理を考えます。材料を切ったり、混ぜたり、つぶしたり、味付けをしたり、焼いたりして完成させます。包丁を使う時の表情は真剣そのもの。出来上がって、友達と一緒に食べる味は格別です。

秋になったらサツマイモの収穫も楽しみです。メニューは何になるでしょうか



入園、進級し登園もスムーズに出来るようになり始めると、「うちの子、先生の言うこと聞けていますか？」と保護者の方から新たな不安、心配の声が聞かれます。集団生活の中には約束事がいろいろあります。上履きで外に出ない、外遊びの時にはカラー帽子をかぶる、食事の時間には立ち歩かないなど、生活に関することから、他者と気持ち良く過ごすためのルールまで細かく数えたら本当にたくさんあります。『どうして？そうしなくてはいけないの？』『ぼく（わたし）はヤダ！』と自分の気持ちを強く訴えることも多い4、5月ですが、好きな先生、好きな友だちが出来始め、『○○ちゃんと一緒にしたい』『先生のお話を聞きたい』と、集団の中の一員でありたいという思いが出てきた時、周りのことにも目が向けられるようです。急いで決まりを守るという行為だけに目を向けず、人間関係の中で自然に芽生えてくる規範意識を信じて、繰り返し声を掛けながら見守って行きたいと思っています。

主幹保育教諭 中城 真由美